

上田市教育委員会12月定例会会議録

1 日 時

令和6年12月18日（水） 午後3時00分から午後3時50分まで

2 場 所

上田市役所 202・203会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	酒 井 秀 樹
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	大久保 恵子
委 員	木 口 博 文
委 員	萱 津 公 子

○ 説 明 員

小野沢教育次長、龍野教育参事、町田教育総務課長、宮原教育施設整備室長、長田学校教育課長、上原生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、久保田人権同和教育政策幹、小須田学校保健給食課長、田中中央公民館長、滝澤城南公民館長、中村上田情報ライブラリー館長、清水第一学校給食センター所長、小林丸子地域教育事務所長、池田真田地域教育事務所長、若林武石地域教育事務所長

1 あいさつ

これより12月の教育委員会定例会を始める。

昨日、北の森学園に視察に行ってきた。

戦略的に小中義務教育学校という学校をつくっていることを学んできた。

その中で、適正の学校規模は、上田市でも小中学校のあり方検討委員会で決めてきたが、その許容範囲というのを決めて、その許容範囲にふれたら5年を目安に検討委員会を立ち上げて、学校をどうしていくか考えていく基準が明確になっているところが上田市と違うところだと思う。

一長一短、これは両方あると思うが、上田市の場合は逆に言うところある程度の基準が決まっているが、それをいつになったら情報提供していくのかというあたりが明記されていないので、その辺りのところを考えていかなければいけないと感じた。

もう1点、小中一貫校から義務教育学校へという流れが北の森学園にはあった。その中で、いわゆる小中一貫校をやってきて、その難しさや良さもわかっていたから義務教育学校になった、というような話をいただいた。今、上田市でも小中一貫の教育ということは心がけてはいるが、もう少し小学校と中学校の一貫した指導のあり方、そのあたりのところをこれからどのように学校が変わっていても動けるような教師側の準備をしておく必要があるのかということ等を学ばせていただいた。

私達にとっても、生徒数の減少と学校をどのように考えていくかが大きな課題になってくると思う。

今回得たことを大切にしながら、私達の世界に活かしていければと思っている。

それでは、定例会に入る。

本日、協議事項はないため、報告事項に入る。

2 報告事項

(1) 上田城跡整備計画事業の進捗状況について（生涯学習・文化財課）

○資料1により和根崎上田城跡整備担当政策幹説明

本日報告事項として3点ある。

1点目、以前より教育委員の皆様にはこの会議の席上で、内容について御説明等をしてきたが、上田城跡の保存活用計画については、令和5年度に策定済みであったが、文化庁から認定をいただきたいということで申請をしていた。ようやく、11月22日付で認定となった。これについては、今後の城跡整備事業の中で、いわゆる憲法的な位置付けになると思うが、こちらをもとに整備事業を進めていきたいと考えている。

計画の内容については、添付資料のとおり。

今回の保存活用計画は、尼ヶ淵の崖を真田氏から現在まで繋がるひとつの価値として位置づけることで新たな上田城の活用に繋げ、支持者の皆様に尼ヶ淵の価値というものを伝えていきたいというのが1番の根幹になっている。それが保存活用計画の中にある大綱に当たるわけだが、櫓の復元のみではなく、そういった従来からある上田城の魅力というものにも目を向けることによって、これからの整備事業の中で、例えば、櫓を御覧いただけないような時にどこにお客様を誘導するのか、あるいは、市民会館の工事中にどのような史跡の活用をするのがふさわしいのか、というようなところについて計画の中でできる限り表現するつもりなので、活用の方を進めたいと思う。

また、同日、文化庁から旧市民会館の解体の許可がおりた。工事については、大変大きなお金がかかり、議会の議決を得ないといけない。年明けに入札を行い仮契約をする予定。その仮契約を3月議会へ上程し、議決となれば、正式な契約ということで工事を進めていくが、目途としては、5月の連休が終わったあたりから具体的な工事に入っていきたいと思っている。

今後の予定ということで、この解体工事と併せてまだ進んでいない三十間堀の発掘調査を教育委員会としては進めて行きたい。実際には、かなり高いフェンスの中で囲まれた工事現場になるかと思うが、その中で工事が及ばないところで発掘調査を進めながら、同時に武者溜りの根拠となるデータを得ていきたいと思っている。そのような中で、来年度末に整備基本計画という上田城の整備計画の1番の元になるものを策定するということを進めているが、調査で得られた情報についてはそこへ反映させながら進めていきたい。

最後に、市民の皆様への周知だが、この保存活用計画の認定、それから今後の市民会館の解体を中心とした整備計画については、来年の3月以降に市民向けの説明会を開催することで周知を図るとともに、ホームページや運用している上田城復元プロジェクトのXの投稿の中でも周知をしていきたいと考えている。

安達教育長職務代理者

大綱にある尼ヶ淵というのがどうしても「淵」と思えないというか、「尼ヶ崖」になっているのでそういうイメージがなかなか持てない。頭の中で一生懸命描いて千曲川がこちらに来ていた、ということで描くが、今はあんなに乾いて車も停まっているし、「尼ヶ淵」と思えない。

もうひとつ、櫓だが、資料が発掘されて再建されていくと思うが、人が集える場

所になるとすると、ここに博物館は移転と書いてあるが、櫓の外観は昔の復元のもので、建物の中は、博物館になったり、太鼓の練習場になったり、貸し集会場のようなものだったりして、人がいつもそこに集えるような場所になればいいなと思う。上田の1番いいところにいい場所があるので、すごくいいものはできたが中に誰も入らないで気がついたら埃だらけだったとならないよう、人が集えるような場所になるといいと思う。

和根崎上田城跡整備担当政策幹

先日、尼ヶ淵の崖が崩れた件があった。今、都市計画課等とも相談をしているが、現状の園路を少し南側に振ることができないかということで、いわゆるあの崖や石垣から一定程度の距離を持ったところを安全に市民や観光客が通れるような形にしていきたいと考えている。

以前から公園管理の部局と話をしているが、安達委員の意見のような、水があったことをイメージできるような整備は景観的な部分になるかと思う。言い訳になるといけないが、崖下の芝生広場については史跡外になる。なので、部課長とも相談はしていくべきではあるが、景観をうまく復元をしていくことを考えながら、園路を少し崖から離すようなことで、安全確保していきたいと現状では考えている。やはり今回も崩落した崖をいかに手を入れないで風合いを残しながら維持していくかということを1番検討しているところなので、当面は人工的な、例えばモルタルの吹き付けなどは現状では考えていない。

しかしながら、万が一崩落したときに通行されている方に影響がないような措置というのは当然必要なので、その対策を講じていく中で、御指摘があったような点については解決していきたいと考えている。

もうひとつ、今後の櫓復元について、実は、昭和24年に上田遊郭に2棟の櫓が戻ってきた時、文化庁にどういう目的で使っていくかということを書いた書類があり、公民館として使いたいということが書いてある。いわゆる社会教育施設という位置づけの中での言葉だと思うが、結局、現在の博物館ができるまでは博物館として櫓が使われていた。安達委員がおっしゃったような外観は櫓で中はというのは、今、実はそういう史跡の活用事例が多くなってきているので、具体的な検討はこれからになるかと思うが、人が集まれる施設にしていくという視点はこれからも持ちながら整備を進めていきたいと思っている。

木口委員

3つ質問がある。

1つは、課題に「民有地公有化」とあるが、どの辺りの所でどのくらいの面積なのか具体的に教えて欲しい。

2つ目は、イベントのことだが、不勉強で申し訳ないが、城跡の中のスペースを使ってイベントなどをしたいときに、民間の人でも公民館などの貸館のような感じで活用することができるのか。

3つ目は、今後の史跡の追加指定だが、先ほど尼ヶ淵のところでもお話あったのがそうなのかなと思ったが、資料の水色になっている部分が小さくてよく見えないが、追加指定しようとしているところは城跡公園外のところになっているがそこは今回の計画には入れられない範囲なのか。そこにまた追加の手続きなどが必要になってくるのか。1ヶ所、市役所の反対側に何とか跡と書いてあるところはどこのどういう場所なのかということを教えていただきたい。清明小学校の辺り、そこは何かあるのか。

和根崎上田城跡整備担当政策幹

1点目だが、公有化を進めていきたい土地は、真田神社があった場所で、西櫓の西側に畑がまだあるが、大体2千平米くらいだと思う。そこがまだ個人のお宅の畑になっているのでその公有化を今後進めて行かなければならない。

また、私有地ではないが、神社用地が2つある。真田神社と招魂社の土地があるが、こちらについては今後の方向性はまだ定まてはいないが、近々の課題としては民有地の畑を公有化して、公園の一部として活用していきたいと思っている。

イベントの関係だが、現在、公民館のように使える場所はない。市民会館の事務棟がまだ使用されていた時は、かなり昔の話だが、公民館結婚式のようなこともやっていたり、希望があれば部屋を貸していた。元々上田市公会堂という市民会館の前身の施設があった時には、それが公民館的な使用をされていたのが、市民会館というステージになったので、その機能を市民会館の事務棟の方で担っていた時期があったと聞いている。

現状ではそういった機能はないので、今後、整備の中で、博物館にも講堂のようなものが全くないので、このような目的として使えるような、一定程度の便益施設はこれから整備をして、視察の際や学校の皆さんが使用することも十分考えられると思うので、計画をしていきたい。

史跡の拡大は、具体的には、陸上競技場や野球場、市民体育館それから尼ヶ淵、

もうひとつはケヤキ並木遊歩道の一部を想定している。

今のところ全て上田市の土地であるので直ちにその史跡の拡大に関しては、文化庁と協議をせずとも上田市が持っている以上それほど危険性はないと考えている。

今後は、それぞれに施設があるので、各施設の存在自体をしっかりと市の中で検証してから公有化するような段取りでいいのではないかと文化庁からの資料があるので、緊急に史跡の指定をしてここを守らなければならないというような場所は現状では上田城の中にはない。今後、例えば、ケヤキ並木については、かつて上田交通が所持していた場所だったので、一部、市の土地にはなっているが、その時に指定が外れてしまったところがあるので、そのような場所から順番に拡大をしていきたいと考えている。

また、清明小学校の場所は、作事という場所である。今の市役所で言えば、建築課のような役割をしていた藩の大工が詰めていた場所の跡地。作事になる前、真田氏の頃は、今の上田高校とはまた別にもう1個屋敷があり、その屋敷として使われたところを仙石氏の時期に作事にしたということで、未だに学校の周りには堀が埋まっている状態。上田高校のイメージ。

安達教育長職務代理者

全くの素人の意見となるが、上田に住んでとても不思議だったのが、香青軒の辺りから旧郵便局に向かって川が昇ってくるというか、逆さである。それはお城に関係があるということで、すごいなあと。どう考えたって川が昇っていくなんて普通では考えられない。あれこそ史跡に入るのではないかと思ったがいかがか。素人の考えだが。

和根崎上田城跡整備担当政策幹

御指摘のところはいわゆる上田城の外堀という位置付けになる。元々蛭沢川は、おそらくこの市役所周辺に向かって自然に流れてきていたと思われる。矢出沢川自体も東西に流れる川であり、そこに無理やり、太郎山の方に川の流れを変えることによって、東側を守るための外堀として使用した。そのために矢出沢川と蛭沢川は川底を低くしないと北側の方に流れていかない。矢出沢川の場合は、高橋の西側の方に向けて、深くしないと流れていかないという、山の方に向かって川が流れるということの原理はそういうところである。非常に観光客の皆様にも、面白く思っただけの場所なので活用していきたいが、なかなか城下町の方まで史跡の拡大ということを図るというのは現状では難しいが、私どもとしては、できる限り取り組

んでいきたいと思っている。

大久保委員

市民の方への説明をするということだが、市民会館の下にかつてどういったものがある、だから取り壊して発掘するんだ、というようなところを皆さんすごく知りたいと思うので、そういった説明をぜひして欲しい。

和根崎上田城跡整備担当政策

実際には、市民会館は半地下でステージになっているので、先日御説明したような石垣の跡だとかそういったものが見つかる可能性は非常に低いと思われる。

ただ、建物の地下に埋まっている部分よりも外側については、特に尼ヶ淵の崖側についてはまだ1度も発掘調査をしたことがないので、土塁があったと思われる。そのようなところについてはしっかりと確認をして復元できると判断できれば崖際に土塁をつくったり、そのような環境にしたいと思っている。いずれにしても今申し上げたようなことを市民の皆様にはしっかりとお伝えをしていきたい

(2) 令和6年度「生涯学習シンポジウム」実施報告について(生涯学習・文化財課)

○資料2により、上原生涯学習・文化財課長説明

このシンポジウムについては、令和3年に上田自由大学創設100周年を迎えたことを契機に、社会教育運動の意義を顕彰し、市民の自発的な学習活動を現在、そして未来に繋げていくことをテーマとし、市民の皆様が主体的に取り組むフォーラムを教育委員会が協働する共済事業として開催している。

今年度、自由大学100年記念フォーラムについては、11月10日に上田商工会議所を会場とし、53名の御参加をいただいた。

今回は、市民と行政が協働開催する本テーマによるフォーラムの集大成として、自由大学が求めていた「学び、学び合うこと」を「ゼミナール」の試みの実践を通して参加者が体験し、これからの「学びの姿」を考え、その自由大学の精神をいかに未来につなげていくかを考える機会になることを目指して実施した。

100年前に目指した自由大学の学びは、現代に置き換えると大学で行われているゼミナールに近い学習形態であったのではないかと考えのもとに、午前の部では基調講演の後にゼミナールの試みとして、自由大学が求める「学び、学び合うこと」を講師とゼミ生によって模擬的に実践し、午後の部では、このゼミナールの試みを参考にゼミナールの体験として、参加者がテーマごとグループで、学び、学び合う

ことを体感した。

参加者の感想・意見をアンケートの中には、自ら学ぶ意欲を持つことが大事であり、その上で学び、学び合うことが学びを深めるといった感想やゼミナール形式の学びの意義をつかむことができた、などの感想があり、参加者がそれぞれ学びの姿を考えるきっかけとなった。

また、今回フォーラム3年目で最後の年となり、過去現在未来というところでテーマ設定してある。過去を振り返り自由大学運動の精神が、現代にどのように生き、私達がどのように未来に繋げていくかこの3年間の活動を通じて、学びとは何かを見つめ直す良い機会となった。

今年度は、上田高校生への出前講座を実施し、学びとは何かを考える機会として意見交換をした。今後、未来に繋げていくためにどのように取り組んでいくのか、この自由大学の発祥の地である上田においてのあり方について、これから第3次生涯学習基本構想の策定を進めていくが、私どもとしては社会教育運動で意義・精神を顕彰し、市民の皆様の主体的な学習活動の促進に繋がたいと考えている。

大久保委員

参加者53名の市内・県内・県外の内訳を示していただいたが、できれば年代や性別などもわかればよかった。テーマがいろんな年代で考え方が違っていたりするので世代の違う方がやり取りする場があった方が良かったのかなと感じた。

上原生涯学習文化財課長

資料に記載がなく申し訳なかったが、年代別だとアンケートの集計結果ではあるが、20代30代40代が約10%程度、やはり60代70代の方が多い状況。男女比については調べるができなかった。

(3)信州上田5大学リレー講座「未来学科」2024実施報告について(生涯学習・文化財課)

○資料3により上原生涯学習・文化財課長説明

この講座については、大学の最先端の学びを市民の生活や地域づくりに役立てていただくため、市内の5つの大学が学校の枠を超え、地域に開かれた学科、未来学科として大学をリレーして講座を実施するものである。毎回、各校のキャンパスを会場に講座を開催し、終了後にはキャンパスツアーを実施している。

講座の内容は、信州大学から始まり最終回は上田女子短期大学まで全5回の講座を開催し、175人の受講生が出席した。

また、この講座は、地元のケーブルビジョンの協力をいただき、放送の視聴による自宅での受講も可能とし、受講生が諸条件を満たした場合には修了証を発行することとしている。

また、講座終了後のキャンパスツアーにおいては、各学校の研究室、実験室等の施設見学のほかに、大学が所有する国の登録有形文化財もいくつかあり、この機会に個別に説明していただくことを学校に依頼し、学校の歴史や文化遺産に触れていただくことで、学びを深めていただいた。

また、今回、長野工科短期大学では、オープンキャンパスと併催をして、模擬授業や展示物等の見学が充実し、ツアーを通じた大学の魅力に触れていただき大学への理解を深めたキャンパスツアーとなった。

講座内容は、「生活に生かせることがあったか」の問いに対して一定程度評価をいただいた。

また、昨年度から「中・高生の参加しやすい環境整備」として、該当者への重点的周知及び上田駅からの送迎サービスを試験的に実施しているが、残念ながら今年度についても利用はなかった。

そのほか、誰もが学べる環境整備として、毎年託児サービスを設けているが、サービスを利用しての感想を参考に周知方法の充実とともに引き続き取り組む。

いずれにしても、生涯学習推進の観点から、市民の皆様の学びの機会の提供を目的としているが、この講座開設にとどまるものではなく、「学園都市上田」としての利点を生かした大学との連携を模索して、中高生をはじめとする多くの市民の皆様に各大学の特性などの強みを生かした魅力ある学びの提供を引き続き粘り強く進めていきたい。

安達教育長職務代理

今、「引き続き粘り強く」とおっしゃったが、とてもいいと思う。

この人数が多いか少ないかというのは、具体的にわからないが、やはりこの場所ひとつの文化を育てていくことは生涯学習でとても大事なことだと思うので、粘り強く、今年これだけのことをやって、これだけの答えが出るというようなものではなく、長い目で見て行って欲しい。

今日だったか、サントミューゼのことが新聞に出ていたが、例えば受益者負担みたいなのうに強く言ってしまうようなことはとても残念である。やはり願いを持ってここにこんな文化を育てていくということは大事にして欲しい。

今の言葉はとても心強かった。

木口委員

先ほどの自由大学も今回の信州上田大学リレー講座も続いていて、やはりこういう事が、私は、検討を始めたオープンドアスクールなどにもいろいろな意味で繋がっていくというか、関連づいていったりするのではないかと思います。

今、安達委員がおっしゃったように、今後も広げていっていただきたい。

大久保委員

参加された方の感想で、「また来年ぜひ参加したい」というお言葉をいただけるというのが、質の高い講座であったり、企画の良さだったりと思うので、引き続き次回も期待している。

(4) 令和6年度青少年善行表彰及び「家庭の日」の作文の表彰について

(生涯学習・文化財課)

○資料4により上原生涯学習・文化財課長説明

去る11月23日に、上田創造館において被表彰者、受賞者、そして家族等の関係者に御参加いただき、善行表彰及び家庭の日の作文の表彰式を行った。

まず、青少年善行表彰は、地域で良い行いをした青少年を顕彰することにより、誇りと自信を高め、よりよい市民としての豊かな心と実践力の育成昂揚を図る目的で行っている。

今年度は、推薦いただいた9団体を表彰した。表彰式では、スクリーンで活動の様子を紹介するとともに、受賞された皆様方の感想をいただいた。その場面では、自分達の活動が表彰という形で認められたことが、本人達の自信と自己肯定感を高めていられるような感想をいただくとともに、今後の取組の決意などを聞くことができた。大きな期待とともに頼もしさ、心強さを感じた。

次に、「家庭の日」の作文は、家庭づくりの大切さについて広く理解を得るための取組の一環として、日頃の家族への感謝や家族への思いをテーマとする「家庭の日」の作文を市内小中学生から募集し、入選作品を表彰するものである。

今年度は、411点の応募をいただき、その中から入選作品として優秀作品4点、優良作品11点の計15点。小学生4名、中学生11名の方が受賞した。受賞者および作品名については資料の4に記載のとおり。

当日は、優秀作品の中から代表して小学生1人に朗読していただいたが、どの作品においても、家族と一緒に過ごす日常、そして家族の繋がりの大切さや家族への

感謝の気持ちが溢れ、心温まる内容の作品ばかりである。優秀作品4点の作文を掲載した作品集を別冊でお配りしたので、御覧いただきたい。

この善行表彰および家庭の日の作文については、表彰することもひとつの目的ではあるが、この表彰を契機に、多くの青少年や児童生徒に広く波及させていきたいと思っている。この善行表彰の活動や優秀作品4点の作品については、市ホームページに掲載し、市民の皆様に御覧いただくほか、当日会場で朗読していただいた作品を子ども情報紙ヤッホーに掲載し、小中学生の児童生徒の皆さんに御覧いただくことを予定している。

大久保委員

善行表彰の中で神科小などは、学校訪問の際に玄蕃山のプロジェクトがあり、活動していることを校長先生から聞き、頑張っているなと感じた。それから2年経ってこういった形で表彰していただけたのはとても良かった。

先ほどお話にあったひとつのプロジェクトの表彰だけに関わらず、表彰を受けてそういった思いや地域での活動などが本当に市内に広く効果を望んでいると課長の話があったが本当にそうだと思った。

私もこれをきっかけに、もっと地域のことを考えてくれる子どもや家庭の作文から家庭のあり方について考えていくきっかけになるといいなと思う。

木口委員

善行表彰だが、今回、実は私の自治会の子ども達が受けて、私も関係者として一緒に参加させていただいた。

今回の団体とか個人に関してもやはり学校が多く、学校ではこういったことに目を向けて推薦しやすいのかなと思った。

私の自治会の方達に「どなたか善行をされたような方はいないか」と相談をしたところ、毎年子ども達がやっているあの活動がいいのではないかと提案があった。その活動に実は私も関わっていたのに、いつもやっていることだと善いことだという感じが弱かったのだが、改めて言ってもらって、このように表彰された。子ども達は表彰されたことでとても喜んでいて、代表で受け取った子達は本当に誇らしげな表情でいい笑顔を見せていた。このように表彰されるということが子ども達の心の部分としてよい影響があると思う。意外と見つかっていない、推薦に挙がっていないが地元でいろんなことをやっている子ども達が多々いるのではないかなと思ったので、そういったところをぜひ拾い上げて欲しい。

それと感想だが、作文の方は、朗読した小学生の男の子が本当に上手で、聞いている人みんな涙ぐむようないいお話だった。これに関してもやはり学校の先生方とかもいろいろとサポートしていただいているのだろうなというのが感じとれた。本当にこういうこともありがたいと感じた。

上原生涯学習文化財課長

善行表彰の関係だが、こちらとしてもアンテナを張らせていただき地域から推薦がなかった場合でも、このような活動を推薦したらどうかと提案はしており、地域の活動にもアンテナを張り、表彰できればと思っている。

萱津委員

子ども達の発想が、大人にしっかり認められるということはとても大事なこと。自分達の活動・発想が、地域のことに目が行っていたり、日本の被災者や世界に目がいっているというところを認めてくださったというのは、取組として大事なことだと思う。ぜひ、今の話のようにいろいろなところのアンテナを張っていただいて、小さなことでもしっかりキャッチして欲しい。

それから、子ども達が作文で自分の意見をまとめるという経験が高校、大学になってくるとレポート以外なくなってきたという現実もあるので、ぜひ、文を書いて自分の意見をまとめるという、この家庭の日の作文の機会というのも貴重だと思うのでぜひ継続していただきたい。

安達教育長職務代理

家庭の日の作文だが、ホームページとヤッホーに掲載することだが、広報うえだにも載せてもらいたい。子どもってこういうふうにお父さんのことを思っているんだとか、おじいちゃんおばあちゃんのことをこう思っているんだとか、逆に勉強させてもらえるなと思った。自分がそうなのだが、ホームページは必要がないと開かないので、ホームページに載っていてもそこに目がいけないと思う。上田市で言えば広報うえだの方が影響力強いかなというふうに思った。

上原生涯学習・文化財課長

その点を検討しているが、今年度は枠をいただけなかった。次年度以降は善行表彰も家庭の日の作文についても取り組めればと考えている。

酒井教育長

善行表彰は、私は高校生の活動に感動した。上田高校のカンボジアプロジェクトはもう8年も続く縦に長い活動で、今回の能登の募金活動は、上田市内の5校の高校生が、今度は横に繋がって募金活動するという、縦と横の繋がりを高校生の活動から感じて嬉しかった。

ぜひまた、そういうところをたくさん発掘していただければと思う。

報告事項(5)から(11)について説明はないが委員の皆様から御質問等あればお願いしたい。

大久保委員

資料5の第2学校給食センターにおける取組だが、実施報告の中でベジチェックというのはどういった内容のものか。アンケートに関してもベジチェックの実施について御意見いただいているようであるが。

小須田学校保健給食課長

ベジチェックについては、タブレットのような機械で手を20秒ほどかざすと、その方の野菜の摂取レベルがわかり、大体どれくらい野菜を摂っているのかわかるというものである。明治安田生命に来ていただいたが、上田市と健康増進に関する連携協定をしており、その関係でベジチェックを実施していただいた。

大久保委員

今回、男性の方も来てくださっていて、給食の試食会でお父さんが来るというのは私はあまり見たことがなく、とてもいい体験をしていただいたのかと思った。

今後も定期的に食育ツアーみたいなものを開催していただきたいと思った。

小須田学校保健給食課長

今回、平日だったこともあるが、申し込みのところに夫婦でも申し込みできるような形で、1回で2名まで申し込みできる案内とした。お父さんにもぜひ見ていただいて、家族全員で食育の大切さに触れていただきたいので、来年度以降も今回のイベントを検証する中で、また何かしら取組をしていきたい。

萱津委員

アンケートのところに「ベジチェックの実施が保険会社だとわかりがっかりした」とか「保険会社であることを事前に伝えるべきだった」というのは、多分保険会社が

悪いというよりはベジチェックの機械を持ってきてくれたが、そこに、例えば管理栄養士や医療関係者が数値に対して説明をするなど補足があればこういう意見は出てこなかったと思う。多分、生命保険会社だと健康状態が悪いから保険に入ってしまうところに繋がっていくという思考が出てしまったので、できれば管理栄養士などがいれば補足説明のフォローをしてもらっただけでもこういう感想が出てこないのではないかな。検討して欲しい。

小須田学校保健給食課長

意見の内容としてはまさにそういうことだと思う。

私どもも最初の説明のときに連携協定の部分をしっかり説明をしていなかったということがあり、反省点である。

実際にはそういう取組で、チェックの結果も含めてお伝えするというのをほかのイベントでも実績があるが、今言ったように保険会社がやるという違和感があった方もいたのでその辺は今後検討したい。

木口委員

寄付のところだが、国際ソロプチミストからの寄附は、使途限定なのか。

長田学校教育課長

今回は、学校の活動全般に使って欲しいということで30万円いただいたので、当面、基金に積立てて、今後、事業に充当する予定である。

大久保委員

上田情報ライブラリーの開館20周年記念事業で実施報告があるが、実施内容を見るとライブラリー所蔵貴重資料展という割と長期に渡る展示と講座や源氏物語の朗読会、おはなし会があったりという形で、長期にわたる展示、断続的なイベントを開催というところで、20周年の記念事業的なものとしてはとてもいい企画の立て方だと思った。

中村上田情報ライブラリー館長

今年度は3つの催しを開催させていただき、どれも大変好評で盛況であった。

また、貴重資料展は、2か年に渡るということで、1年経ったところで展示替えを行うことと、今年度はできなかったが、資料に関係する講演会を来年度は企画した

ため準備を進めている。

酒井教育長

そのほかよろしいか。

報告事項は以上となる。

続いて3その他として事務局からの連絡等あるか。

上原生涯学習・文化財課長

教育委員の皆様方に11月の定例会で御報告した仏像展のオープニングセレモニーを開催するにあたり、お手元の御案内を確認していただきたい。

来年、1月11日土曜日から「特別展ハッケン！上田の仏像」の展示が始まるが、同じく11日土曜日1時半から美術館において、オープニングセレモニーを開催するので、ぜひ御参加をいただきたい。

酒井教育長

ありがとうございました。そのほか何かあるか。

委員の皆様からは何かあるか。

以上で12月の定例会を終了する。

○全員了承

閉会